

スマトラ地震

# 日本の医療支援本格化

## AMD Aなどテント設営、診療

緊急援助隊医療チームのテントで診察を待っていたハムザルさん(75)は「倒れてきた柱に当たり、頭にけがをしたが、近所に医師はおらず、保健所の看護師にばんそうこうを張ってもらっただけだ。日本の医師に診てもらいたい」と話した。

【パダンパリアマン共同】9月30日に起きたインドネシア・スマトラ島沖地震の被災地、西スマトラ州で、日本の医療関係者による被災者への医療支援活動が本格化した。政府の緊急援助隊が診療用テントを設営、非政府組織(NGO)が移動診療に取り組むなど、4日までに計数百人の患者を診た。地震による重傷者は400人以上に上り、「日本の医療」への現地の期待は高い。

日本各地の医師や看護士25人は2～3日に同州に入り、4日までに18名を診察。同日には震源に近い同州パダンパリアマンに診療用テントを設営、被災者が行列をつくった。

国際医療ボランティアAMD Aも日本人の



4日、設営された診療テント内で、患者に医薬品の説明をする日本の緊急援助隊の女性隊員(右奥)ら。インドネシア西スマトラ州パダンパリアマン(共同)

医師ら2人を含む10人で活動。4日には車2台による移動診療を行い、約200人の患者を診た。

AMD Aメンバーで岡山市の医師津曲兼司さん(52)は「高熱症状